

(仮称) 住田遠野風力発電事業
環境影響評価準備書についての
意見の概要と事業者の見解

平成28年7月

株式会社グリーンパワーインベストメント

目 次

第 1 章 環境影響評価準備書の公告及び縦覧.....	1
1. 環境影響評価準備書の公告及び縦覧.....	1
(1) 公告の日	1
(2) 公告の方法	1
(3) 縦覧場所	2
(4) 縦覧期間	2
(5) 縦覧者数	2
2. 環境影響評価準備書についての説明会の開催	3
(1) 公告の日及び公告方法.....	3
(2) 開催日時、開催場所及び来場者数	3
3. 環境影響評価準備書についての意見の把握	3
(1) 意見書の提出期間	3
(2) 意見書の提出方法	3
(3) 意見書の提出状況	3
第 2 章 環境影響評価準備書について提出された環境保全の見地からの意見の概要と事業者の見解	4

第1章 環境影響評価準備書の公告及び縦覧

1. 環境影響評価準備書の公告及び縦覧

「環境影響評価法」第16条の規定に基づき、環境の保全の見地からの意見を求めるため、準備書を作成した旨及びその他事項を公告し、準備書を公告の日から起算して31日間縦覧に供した。

(1) 公告の日

平成28年5月27日（金）

(2) 公告の方法

①日刊新聞による公告（別紙1参照）

下記日刊紙に「公告」を掲載した。

- ・平成28年5月27日（金）付 岩手日報（朝刊：2面）

②地方公共団体の広報誌によるお知らせ

下記広報誌に「お知らせ」を掲載した。

- ・平成28年5月25日（水）発行 広報すみた（別紙2参照）
- ・平成28年6月2日（木）発行 広報遠野（別紙3参照）

③インターネットによるお知らせ

下記のウェブサイト「お知らせ」を掲載した。

- ・株式会社グリーンパワーインベストメント ウェブサイト（別紙4-1参照）

<http://www.greenpower.co.jp/>

なお、岩手県のホームページより当社のホームページにリンクをされることにより、方法書及び要約書が参照可能とされた。（別紙4-2参照）

(3) 縦覧場所

関係自治体庁舎等の計4箇所において縦覧を行った。また、インターネットの利用により縦覧を行った。

①関係自治体庁舎等での縦覧

県南広域振興局遠野地区合同庁舎、沿岸広域振興局大船渡地区合同庁舎、遠野市小友地区センター、住田町役場

②インターネットの利用による縦覧

- ・株式会社グリーンパワーインベストメント ウェブサイト
<http://www.greenpower.co.jp/>

(4) 縦覧期間

- ・縦覧期間：平成28年5月27日（金）から平成28年6月27日（月）まで
（土・日曜日、祝日を除く。）
- ・縦覧時間：各庁舎・各公民館の開庁・開館時間内

なお、インターネットの利用による縦覧については、上記の期間、終日アクセス可能な状態とした。

(5) 縦覧者数

縦覧者数（意見書箱への投函者数）は、意見なし2名も含めて、6名であった。

2. 環境影響評価準備書についての説明会の開催

「環境影響評価法」第 17 条の規定に基づき、準備書の記載事項を周知するための説明会を開催した。

(1) 公告の日及び公告方法

説明会の開催公告は、環境影響評価準備書の縦覧等に関する公告と同時に行った。

(別紙 1、別紙 2、別紙 3、別紙 4 参照)

(2) 開催日時、開催場所及び来場者数

説明会の開催日時、開催場所及び来場者数は以下のとおりである。

- ・ 開催日時：平成 28 年 6 月 8 日（水） 19 時から 20 時 30 分
開催場所：火の土自治公民館
来場者数：20 名
- ・ 開催日時：平成 28 年 6 月 9 日（木） 19 時から 20 時 30 分
開催場所：遠野市小友地区センター
来場者数：5 名

3. 環境影響評価準備書についての意見の把握

「環境影響評価法」第 18 条の規定に基づき、環境の保全の見地から意見を有する者の意見の提出を受け付けた。

(1) 意見書の提出期間

平成 28 年 5 月 27 日（金）から平成 28 年 7 月 11 日（月）まで

(郵送の受付は当日消印まで有効とした。)

(2) 意見書の提出方法

環境保全の見地からの意見について、以下の方法により受け付けた（別紙 4 参照）

- ①縦覧場所に設置した意見書箱への投函
- ②株式会社グリーンパワーインベストメントへの書面の郵送
- ③株式会社グリーンパワーインベストメントへの書面のメール添付

(3) 意見書の提出状況

提出された意見書の総数は、4 通であった。

第2章 環境影響評価準備書について提出された環境保全の見地からの意見の概要と事業者の見解

「環境影響評価法」第18条及び第19条に基づく、準備書について提出された環境保全の見地からの意見の概要並びにこれに対する事業者の見解は、次のとおりである。

No.	意見の概要	事業者の見解
1	<p>ひとたび原発事故があれば広域汚染（放射線）が長くおこり、その被害は極めて大きい。それに対して、再生可能エネルギーによる発電は地球温暖化の面からいっても伸ばすべきものと考えられる。さて今回の風力発電事業では、自然環境に配慮して、工事に伴うトラック等による環境影響を調査予測し、その評価をしているのは山間部であれ、今後風力発電事業を推進する上で極めて重要なことだと認識する。以上賛成に立って、以下の点を配慮願いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山間部における景観を損なうことのない「電線」「電柱」での地下埋設ケーブルの徹底化（美しい自然を電線によって悪くしてはならない。イタリアでは電線や電柱は見えなかった。） 2. 強風による又は激しく風向が変化する場合、思いがけない金属疲労等の羽根の破損、破壊が見られるため、定期・不定期のメンテナンスにより、長期間の安全・安心が保障された風力発電を期待する。 3. イヌワシ等の鳥の被害をできるだけ少なくするため、旗のような物で風力発電の存在が鳥にわかるよう研究して、改善を図ってほしい。 4. トラック等の搬送にあたり、実測を満たした（排出基準）トラックを使用し、この評価通りとして欲しい。（なお、できれば地元の事業者として還元し、地元経済を活性化して欲しい。） 5. 説明会の参加者が少ない。市の大会等で議会、行政関係者にPRして市民の理解を深めたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送電ケーブルについては、地中埋設を極力行い、景観への配慮を行って参ります。 2. 適切なメンテナンスを実施し、事故の発生を未然に防止して参ります。 3. イヌワシ等の希少猛禽類の事故を未然に防ぐため、今後、有効と認められた対策については、積極的にその導入を検討し、実施致します。 4. 予測評価で使用した範囲内にとどまる排出量のトラックを工事では使用します。また、工事中における地元企業の採用には積極的に取り組んで参ります。 5. 周辺地域住民の方々を中心に、本事業に関する説明を丁寧に行い、ご理解を得ながら事業を進めていけるよう意識して取り組んで参ります。
2	<p>1. コウモリ類について</p> <p>欧米での風力発電アセスメントにおいて、最も影響を受ける分類群として、コウモリ類と鳥類が懸念されており（バット&バードストライク）、その影響評価等において重点化されている。本準備書ではコウモリ類への影響評価として高度別飛翔状況が行われており、その点については評価する。しかし、調査手法や解析、影響予測に問題が散見される。従って、本意見はコウモリ類への影響評価の追加調査を求めるものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度別飛翔状況 <ol style="list-style-type: none"> i. 調査結果概要 <p>本事業に使用される風力発電機は地上から約30~130mがブレード回転域である。このことを踏まえると、30m以上で音声を確認されたコウモリはすべてブレードに衝突することになる。すなわち、第10.1.4-38表における20-25kHzのコウモリは10m（55回）よりも、30+50m（44+20回=64回）が上回り、ブレードに衝突する可能性が極めて高くなっている。従って、表は書き換えられるべきである。</p> ii. 時期別解析結果 <p>9月下旬~10月下旬の50mの記録が欠測していることから、「確認例数が減る傾向」とは言えない。</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度別飛翔状況 <ol style="list-style-type: none"> i. 各高度に設置したマイクロフォンがコウモリ音声を拾う範囲としては、水平方向・垂直方向ともに半径40mほど（マイクホルダ背面を除いた空間。アブラコウモリの音声で実測した結果から推定）です。これらから、ご指摘いただいたように、30mと50m高度で確認された例がすべてブレード回転域を通過したものではないため、高度ごとで集計した結果をお示ししております。また、高度別飛翔状況調査に使用した機材の諸元や観測範囲については、評価書にて記載いたします。 ii. 50m高度は一部欠測しているものの、観測範囲を鑑みると、30m高度のデータを参照することで、高々度を飛翔するコウモリ類の出現傾向を把握できるものと考えます。これらを踏まえる

<p>iii. 時間帯別解析結果</p> <p>「調査地点周辺へ飛来する時間には特段顕著な傾向は認められなかった」とされているが、9月の20-25kHzは30m以上の上空を1晩中、高頻度で飛翔していることを記述すべきである。</p> <p>高度別の音声データはダブルカウントまたはトリプルカウントされているのではないか。</p> <p>同時刻の同じ波形のデータは最も高空のデータとするべきである。各パルスの出現時刻や波形、ピーク周波数を一覧に示す必要がある。また、30mの20-25kHzにおける9月と10月の調査結果から、事業地はコウモリ類の移動（渡り）ルートになっている可能性が高いことをコウモリ類の一般生態と共に記述すること。また、春の移動（渡り）についても同様な調査を行い、時期や頻度を特定する必要がある。ヒナコウモリを含んだ20-25kHzの種群は、第10.1.4-12図(1)の結果から、明らかに事業地内を広範囲に飛翔していることを記述すべきである。</p> <p>2. 影響予測</p> <p>第10.1.4-55表(2)において、「確認例数が少ない」とした基準を示すこと。「迂回するための空間も確保されている」についての具体的なコウモリの迂回半径（旋回半径）を示すこと。高空飛翔は今回講じられる環境保全措置は全く意味がないことから、措置を講じたとしても「低減できる」とは言えない。</p> <p>3. 事後調査計画</p> <p>コウモリ類は法令に関係なく、取得されたすべての個体を冷凍保存にすること。本準備書においても明らかにされたように、本事業地はコウモリ類の移動（渡り）ルートになっている可能性が高いことから、春季期間および8月から10月までの死体探索を週に1回以上行うべきである。</p>	<p>と、9月から晩秋に進むにつれて確認例数が減る傾向となっていると考えられます。</p> <p>iii. 時間別解析結果において、最も通過事例数が多いものでもおおよそ1ヶ月で9事例（9月の1時）であり、決して高頻度ではないものと考えております。また、高度別の音声データは、観測範囲が重複するためダブルカウントしている可能性が考えられるものの、一方で同じ周波数帯の種群が同時刻に複数個体飛翔している場合も考えられることから、それぞれの高度で集計しております。</p> <p>今回の調査結果からは対象事業実施区域がコウモリ類の移動ルートになっているかどうかは不明ですが、20～25kHzの種群の一般的生態として、季節移動を行う旨、評価書にて記載いたします。</p> <p>高度別飛翔状況調査の調査時期を秋季としたのは、高々度を飛翔するコウモリ類（ヒナコウモリを含む）の分散期に該当すること、国内でのコウモリ類の衝突事例は秋季に衝突事故が集中しているとのこと等を踏まえ、設定いたしました。これらから、対象事業実施区域における衝突のリスクの高いコウモリ類の利用状況の傾向が把握できているものと考えております。また、ヒナコウモリを含んだ20～25kHzの種群が広範囲に飛翔していることについては、その確認状況を評価書にて記載いたします。</p> <p>2. 秋季は分散期にあたり、また、国内でのブレード等への衝突事例が報告されている時期でもあるため、高度別飛翔状況調査結果として重要な時期であると考えております。これらの結果から1日あたりの通過事例数を算出すると、相対的に小さな値となることから、確認例数が総じて少ないものとしております。また、それぞれの風力発電機間は数百mの間隔があるため、コウモリ類の個体サイズや出現状況等を踏まえると、迂回する空間としては確保されているものと予測しております。また、海外での事例でもご指摘のような行動まで把握された学術論文等はないものと認識しております。それらも鑑み、事後調査を実施してコウモリ類の衝突の有無を確認し、その結果、影響の程度が著しい場合には、有識者の助言や指導を得て、状況に応じた効果的と考えられる環境保全措置を講じ、影響低減に努めてまいりたいと考えております。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>3. 事後調査により死亡個体を発見した場合は、関係機関の助言や指導等を踏まえ適切に対応いたします。コウモリ類の死骸調査については、ご指摘も鑑み、季節移動がある春季と秋季には週1回程度調査を実施することと致します。</p>
3	<p>1. コウモリ類への保全対策について コウモリは夜間にたくさんの昆虫を捕食するので、生態系の中で重要な役割を持つ動物である。また害虫を食べるので、人間にとって、非常に役立つ動物である。 現在国内では風力発電施設が建設または建設が多数予定されており、バットストライクも生じている。これ以上風車でコウモリを殺すな。重要種も、重要種以外のコウモリも、すべてのコウモリについて影響予測及び保全対策を行うべきだ。</p> <p>2. P462 コウモリ類高度別飛翔状況調査の手法について ・マイク設置高の記載があるが、どの範囲の音声を録音したのか記載がない。 ・つまり 50m 以上の音声なのか、50m 以下の音声なのか、30m 以上なのか以下なのか、10m 以上なのか以下なのか記載がない。 ・超音波マイクの設置方向（横向きに設置したのか、下向きに設置したか）を記載せよ。また、超音波マイクに bathat を装着したか？装着したならば、その記載をすること。 ・音声解析に使用したソフト名の記載がない。 ・ヒナコウモリは 5～8 月頃に繁殖ピークを迎えるが、調査したのは 9 月～11 月である。よって事業者は貴重なコウモリが生息するにもかかわらず、繁殖状況の把握を全くしていない。至急繁殖期の調査をやりなおせ。</p> <p>3. コウモリ類「②50kHz 付近の種群」について ・P462「②50kHz 付近の種群」にはユビナガコウモリ、アブラコウモリ等を挙げているが、P464 に記載してある確認種の中では、モモジロコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリが 50kHz 付近の声を出す。また、モリアブラコウモリも 50kHz 帯の声を出す。このうち、ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、モリアブラコウモリが重要種である。つまり「②50kHz 付近の種群」について、重要種が含まれる。よってブレード・タワーへ接近・接触について予測評価を行うべきだ。 ・周波数だけでなくパルスの形により区分が可能だ。「①20kHz 付近」「①50kHz 付近」としたソナグラムを添付すること。</p> <p>4. P460 コウモリ類の調査地点について ・風力発電施設 35 基に対し、高度別飛翔状況調査地点は 1 地点のみである。全長 3km 以上の広域範囲に風車が林立するが、1 地点のみでコウモリ類の動態を把握できるはずがない。高度別飛翔状況調査地点は、各風力発電施設設置位置（35 地点）とするべきだが、せめて 500m 毎に 1 地点以上にするべきだ。</p> <p>5. P526 コウモリ類高度別飛翔状況調査結果について ・調査日数 88 日間のうちの通過事例数だけでなく、「コウモリ類を確認した日数」の記載もすること。記載した内容では 1 晩で多数確認されたのか、あるいは毎晩確認されたのかかわからない。また、コウモリ類の出現日数（出現頻度）を月ごとに集計すること。 ・10 月に 50m の録音が欠測した理由を記載すること。</p>	<p>1. コウモリ類については、バットディテクターを用いた任意踏査による生息状況調査、捕獲調査に加えて高度別飛翔状況調査にも取り組み、対象事業実施区域及びその周囲の状況の把握に努めました。調査結果を踏まえ、影響の程度は小さいものと予測いたしましたが、高々度を飛翔するコウモリ類も確認されており、衝突の可能性についても考えられることから、事後調査としてコウモリ類の衝突の有無の確認調査を実施することとしました。事後調査の結果を踏まえ、影響の程度が著しい場合には、有識者の助言や指導を得て、状況に応じた効果的と考えられる環境保全措置を講じ、影響低減に努めてまいります。</p> <p>2. 各高度に設置したマイクロフォンがコウモリ音声を拾う範囲としては、水平方向・垂直方向ともに半径 40m ほど（マイクホルダ背面を除いた空間。アブラコウモリの音声で実測した結果から推定）です。また、マイクロフォンの設置に当たっては雨避け用のマイクホルダを自作し、それを用いて観測しました。音声解析には AnalookW (Titely Scientific 社製) を用いました。調査は 9 月から実施しており、高々度を飛翔するコウモリ類（ヒナコウモリ含む）の分散期に該当すること、国内でのコウモリ類の衝突事例は秋季に衝突事故が集中しているとのこと等を踏まえると、高々度を飛翔する種群の利用状況の傾向は把握できているものと考え、予測を行っております。なお、上述の高度別飛翔状況調査に使用した機材の諸元等については評価書にて記載いたします。</p> <p>3. ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリについては予測対象種として含めており、影響予測を行っております。評価書においては 50kHz 付近の種群も予測対象種として扱います。また、それぞれの種群の代表的なソナグラムも評価書にて記載するよう致します。</p> <p>4. 高度別飛翔状況調査は風況観測塔を活用して調査を実施しております。風況が的確に把握できる代表点で、かつ対</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・10m、30m と 50m の音声で、ダブルカウントの可能性はあるのか？検証すること。 ・コウモリの出現の有無と気象状況の関係を把握していない。音声録音をした日の、気温、湿度、天候、風力、風向の記載がない。必ず、コウモリの出現の有無と気象状況との相関をみること。もし相関があるならば、保全対策に活用すること。 <p>6. P528 時間別解析結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間別解析については、その日の気象状況や、日没からの時間といった視点で解析するとよい。 ・コウモリ類の活動時間が日没後何分～日の出前何分なのか、月ごとに把握すること。もし相関があるならば、保全対策に活用すること。 ・調査期間が 9-11 月では短すぎるので、3-8 月の期間も調査して解析すること。 <p>7. P619、621、622 重要な哺乳類への影響予測（ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ）について</p> <p>ブレード・タワーへの接近・接触について、「本種は主に森林内で採餌し、風力発電機のブレードの回転範囲に相当する高度を飛行する可能性は低いことから、影響は小さいものと予測する。さらに環境保全措置を講じることから、影響は低減できるものと予測する。」とあるが、P464 に記載してある確認種の中では、モモジロコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリが 50kHz 付近の声を出す。また、モリアブラコウモリも 50kHz 帯の声を出す。「②50kHz 付近の種群」について、ブレードの回転範囲に相当する高度で確認されており、ブレードへ衝突する可能性が高いのではないかと。事業者は1年のうちの、たった秋季のみ、高空の調査をしたが、コウモリが最も活動する 春季～夏季の調査を行っていない。このような短期間の調査にかかわらず、「②50kHz 付近の種群」のコウモリ類が確認されており、利用頻度はとても高く危険な状況と言える。なぜ「風力発電機のブレードの回転範囲に相当する高度を飛行する可能性は低い」と言えるのか？「風力発電機のブレードの回転範囲に相当する高度を飛行する可能性は低い」とするならば少なくとも 1 年間は、ブレードの回転範囲、つまり高空の飛行状況調査を行った上で言うべきである。</p> <p>8. P921 に記載した事業者が講じるとした環境保全措置には、コウモリ類へ保全措置は全く記載されていないので、影響は低減できない。よって、この準備書の予測評価には重大な瑕疵がある。</p> <p>9. P620 重要な哺乳類への影響予測（ヒナコウモリ、20～25kHz 付近の超音波を発する種群 を含む）について</p> <p>「改変区域やその周辺にはコロニー等は分布していないこと、確認例数は少ないこと、改変は風力発電機の設置箇所及び一部の搬入路に限られること、迂回するための空間も確保されていることから、ブレード等へ衝突する可能性は低いものと予測される。」とあるが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者はヒナコウモリの繁殖期（5-8 月頃）の調査をしていないので、付近に繁殖コロニーがあるか否か知る由もない。いい加減なことを書いてはいけない。 ・「確認例数が少ない」とあるが、秋季のみの調査にかかわらず 20～25kHz 付近の超音波を発する種群が高空で多数確認されている。そもそも春季から夏季の調査をしていないので「確認された例数が少ない」だけではないのか？ ・「改変は風力発電機の設置箇所及び一部の搬入路に限られる」ことにより「ブレード等へ 衝突する可能性は低いものと予測 	<p>象事業実施区域を代表する地点にて、コウモリ類の高度別飛行状況調査を実施しております。</p> <p>5. コウモリを確認した日数は 10m:33 日、30m:12 日、50m:7 日でしたので、月別の出現日数とあわせ評価書に記載します。</p> <p>欠測した理由はデータロガーの不具合によるものです。</p> <p>高度別の音声データは、観測範囲が重複するためダブルカウントしている可能性が考えられるものの、一方で同じ周波数帯の種群が同時刻に複数個体飛行している場合も考えられることから、それぞれの高度で集計しております。</p> <p>また、ご指摘を踏まえ、気象状況と出現状況についても解析し、評価書にて記載いたします。</p> <p>6. ご指摘も鑑み、解析内容を検討致します。解析した結果は評価書に記載いたします。調査は9月から実施しており、高々度を飛行するコウモリ類（ヒナコウモリ含む）の分散期に該当すること、国内でのコウモリ類の衝突事例は秋季に事故が集中しているとのこと等を踏まえると、高々度の一般的な利用状況の傾向は把握できているものと考えております。</p> <p>7. 50kHz 付近の種群については 50m 高度でも確認されていることから、ブレードへの衝突の可能性のあるものと考えます。これらも踏まえ、事後調査としてコウモリ類の衝突の有無の確認調査を実施することとしました。事後調査の結果を踏まえ、影響の程度が著しい場合には、有識者の助言や指導を得て、状況に応じた効果的と考えられる環境保全措置を講じ、影響低減に努めてまいります。</p> <p>8. 「鳥類や昆虫類が夜間に衝突・誘引する可能性を低減するため、ライトアップは行わない」ことを環境保全措置として講じることとしております。昆虫類を餌とするコウモリ類の誘引についても低減ははかれるものと考えております。</p> <p>9. 現地調査は高度別飛行状況調査だけでなく、バットディテクターを用いた任意踏査による生息状況調査や哺乳類相調査として任意踏査等も実施しており、その中では樹洞等の出来る大木等は尾根上にはほとんど確認されていないこと、入感頻度が高い場所は確認されていないことを踏まえ予測し</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>される」とした理由はなにか？コウモリ類は飛翔して移動するのでたとえ改変面積が狭くとも風車へ接近・衝突する可能性があるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「迂回するための空間も確保されていることから、ブレード等へ衝突する可能性は低いものと予測される。」とあるが、事業計画をみると尾根沿いに連続して風車を建設する予定だ。コウモリ類は飛翔して移動するので迂回しても風車へ接近・衝突する可能性があるだろう。そもそも事業者はコウモリ類の飛翔ルートを把握していないのでコウモリが迂回可能かなど知る由もない。でたらめを書いてはいけない。 ・本準備書に記載した予測は、予測ではなく単なる妄想である。そもそも、このような定性的な予測結果ならば、わざわざ現地調査をした意味はないのではないか？ <p>10. P899 コウモリ類の事後調査について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 鳥類だけでなくコウモリ類についても、風車稼働後のモニタリング調査を経年的に実施するべきである。しかし準備書に記載しているモニタリング調査の頻度（1基あたり2回/月）では少なすぎる。なぜなら死体をタヌキやカラスなどが持ち去るので、月2回程度の頻度では影響を正しく確認できないからだ。少なくとも週1回以上の頻度で1年以上、死体探索調査を行うべきである。 2) 高空（ブレードの回転範囲）でコウモリ類の音声を常時モニタリングして、コウモリ類の出現時刻と気象・風速との因果関係を把握することが必要だ。パットディテクターの延長マイクをナセルに取り付けければ高空の自動録音は可能なので事後調査で少なくとも2年間は実施すること。2年とした理由は、1年目に死体を見つけた場合、保全措置を行った上でさらに1年間保全措置の効果を確認するためである。 3) 死体探索調査によりコウモリの死体を確認した場合は、重要種・重要種以外の区分にかかわらず、カットイン風速を高く設定するなどの適切な保全対策を実施すること。カットイン風速の値は、上記のコウモリ類の音声常時モニタリング調査結果から、コウモリ類の出現の有無と気象・風速との関係より明らかにすること。 4) コウモリ類の専門家へのヒアリングについて 風力発電施設供用によるコウモリへの影響をモニタリングして適切な保全対策を実施するために、必要十分な調査を行うべきである。必要十分な調査については、事業者とその委託先であるコンサルタントの独自の判断によらず、パットストライクについて十分な知識のあるコウモリの専門家にヒアリングを行うべきである。 	<p>ております。</p> <p>秋季は分散期にあたり、また、国内でのブレード等への衝突事例が報告されている時期でもあるため、高度別飛翔状況調査結果として重要な時期であると考えております。これらの結果から1日あたりの通過事例数を算出すると、相対的に小さな値となることから、確認例数が総じて少ないものとしております。</p> <p>対象事業実施区域及びその周囲と比して改変面積が小さいため、当該地域を利用するコウモリ類の生息環境や利用状況、飛翔高度等は風力発電機設置前と比較して顕著な変化が生じないと考えられることから、環境保全措置を講じることによりブレード等への衝突するリスクを低減できるものと予測しております。ただし、高々度を飛翔する種群は衝突する可能性が考えられることから、事後調査としてコウモリ類の衝突の有無の確認調査を実施することとしました。事後調査の結果を踏まえ、影響の程度が著しい場合には、有識者の助言や指導を得て、状況に応じた効果的と考えられる環境保全措置を講じ、影響低減に努めてまいります。</p> <p>それぞれの風力発電機間は数百 m の間隔があるため、コウモリ類の個体サイズや出現状況等を踏まえると、迂回する空間としては確保されているものと予測しております。また、海外での事例でもご指摘のような行動まで把握された学術論文等はないものと認識しております。それらも鑑み、事後調査を実施することといたしました。</p> <p>10. 1) 準備書にて記載しておりますとおり、コウモリ類の死骸確認調査についても事後調査として実施いたします。調査頻度については1基あたり2回/月以上としております。ご指摘を踏まえて、国内での衝突事例が集中している秋季と、秋季と同じく移動期である春季については調査頻度を上げ、週1回程度実施するよう致します。</p> <p>2) 3) 4) まずは死骸確認調査を実施してコウモリ類の衝突の有無を確認し、その結果、影響の程度が著しい場合には、有識者の助言や指導を得て、状況に応じた効果的と考えられる環境保全措置を講じ、影響低減に努めてまいりたいと考えております。追加的な環境保全措置を講じた場合には、ご指摘いただいたような確認方法についても検討するよう致します。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4	<p>1. 現地調査時期について</p> <p>コウモリ類を捕獲調査した期間を、哺乳類調査を行ったすべての時期に含めて整理しているようであるが（表 10.1.4-3）、これではコウモリ類の捕獲調査を適切な時期に実施しているのか理解することができない。それぞれの季節にどのようなコウモリ類が生息しているのかを把握するためには捕獲調査は必須であるが、哺乳類の調査結果（表 10.1.4-4）を見ると、春季調査においてはコウモリ類が捕獲により確認されたと読み取れる結果を示していない。これは春季の捕獲調査を行っていないのではないかと？ まず、コウモリ類の捕獲調査を実施した時期（どの調査サイトを何年何月何日に実施したのか、それぞれの調査サイトでどのような捕獲機材をいくつ、何時から何時まで設置したのか）を明確に示さねば適切な時期に適切なコウモリ類の捕獲調査を実施したと証明できない。まず、春季を含めて当然ながらすべてのコウモリ類の捕獲調査をどのようなスペックで実施したのか詳細に示すべきである。これが示せないのであれば、春季のコウモリ類の捕獲調査は適切に実施できていないことを事業者自ら証明しているか、もしくは捕獲調査は実施したがコウモリ類を捕獲できなかったという意味になるがそれで間違いはないか？ 春季にコウモリ類は捕獲されなかったということならば、それは春季に当該地域には入感調査で確認された「ヒナコウモリ科の一種」および「コウモリ目の一種」以外にはこの時期のこの地域にはコウモリ類は一切生息していないということになるが、そのようなことがあるはずがないだろう。つまり本準備書の内容では、春季に当該地域を利用しているコウモリ類相の把握が一切出来ていないことを示しており、春季に利用しているコウモリ類への評価を欠いていることを事業者自ら証明している。まず、春季の捕獲調査を適切に実施しているのか詳細に示すべきである。もし春季のコウモリ類の捕獲を実施していないのであるならば、それは準備書に決定的な不備があるということであり追加調査しなければ準備書として成立しない。</p> <p>2. 哺乳類の確認種</p> <p>表 10.1.4-4 について指摘する。当該県に分布記録があり重要種に該当するコヤマコウモリ、ヤマコウモリ、モリアブラコウモリ、チチブコウモリ、ウサギコウモリ、カグヤコウモリ、ノレンコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ユピナガコウモリ、ヤマネ、カワネズミ、ヒメヒミズ、ミズラモグラが確認されていないが、これらの種は事業実施区域（特に改変区域）に絶対に生息しておらず、故に影響はないと言い切れるのか？ これら前掲したすべての種に対し、どのような調査内容（調査時期、調査機材、調査日数、調査地点、具体的な調査日、詳細な調査方法）を実施しているのか明示しなければ信用するに値しない。調査受託会社の努力不足で確認されなかっただけに過ぎないものを、獲れなかったから「いない」と拡大解釈して、全くの科学的根拠のない推論から予測評価を行っているのではないかと？ 特にコウモリ類については飛翔動物であり、風力発電のブレード等に衝突する可能性がある以上、衝突する可能性のある空間（風車ブレードの回転範囲）を飛ぶ可能性のあるコウモリ類については重要種に該当する全種について予測評価を実施しなければならないが、文献調査で確認されている全種（モグラ類、ネズミ類も含めて）が、絶対に事業実施区域に生息しない、あるいは影響はないという根拠を示さねば準備書として決定的な不備がある。</p> <p>また、準備書の確認種では、ヒナコウモリ以外は樹冠の下の空間を主に飛ぶとされる低空を好むコウモリ類ばかりが確認されている。しかし、風力発電事業における環境影響評価では、風車ブレードが回転する空間を飛翔通過するコウモ</p>	<p>1. コウモリの捕獲調査は、平成 26 年 9 月 20 日～22 日、平成 27 年 6 月 9 日～11 日、8 月 18 日～20 日で行われています。6 月上旬に調査を実施しており、これらが春季の状況と合致するものと考えます。捕獲調査の結果、ヒメホオヒゲコウモリとコテングコウモリが確認されています。捕獲調査は、各回 2 晩（日没前～明け方）調査を実施しております。調査地点の環境は p.461 の第 10.1.4-3 表に記載のとおりです。</p> <p>2. 哺乳類の調査内容については、フィールドサイン及び直接観察調査、ネズミ類捕獲調査、自動撮影調査、コウモリ生息状況調査、コウモリ類捕獲調査、コウモリ類高度別飛翔状況調査を実施しており、調査地点は準備書 p.460 に、調査期間は p.461 に示しております。調査機材等は p.462 の各調査項目にて記載しております。ご指摘を踏まえて、哺乳類については、文献その他の資料調査にあがっているものの、現地調査により確認されていない重要な種についても影響予測を実施いたします。ただし、対象事業実施区域及びその周囲における生育環境等が不明であることから、一般生態特性を踏まえて定性的な影響予測を実施することとし、その結果は評価書にて記載いたします。</p> <p>また、高々度を飛翔するコウモリ類を捕獲するのは困難です。そのため、高度別飛翔状況調査も実施致しました。現時点では、東北地方において音声のみで種まで確実に同定するのは困難であるため、種群ごとに纏めて結果を記載しております。</p> <p>3. 高度別飛翔状況調査の調査期間が秋季としたのは、高々度を飛翔するコウモリ類の分散期に該当すること、国内でのコウモリ類の衝突事例は秋季に衝突事故が集中しているとのこと等を踏まえ設定致しました。実際に衝突が集中的に確認されている時期を調査することで、衝突リスクを予測する上での飛翔状況の傾向は把握できているものと考えております。</p> <p>50m 高度で欠測となっている理由としては、データロガーの不調によるものです。各高度に設置したマイクロフォンがコウモリ音声を拾う範囲としては、水平方向・垂直方向ともに半径 40m ほど（マイクホルダ背面を除いた空間）であり、30m 高度のデータからも欠測期間中の出現傾向は読めるものと考えます。今回の調査のように、</p>
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>リ類が何であるのか、それを第一に確認しなくてはならない。本調査の調査結果は主に低空を飛ぶコウモリ類だけを捕獲して、コウモリ類調査は適切に実施したとしたいようであるが、樹冠より上の空間を飛ぶコウモリ類の種を確認できていないこのリストでは、風力発電事業における適切なコウモリ調査ができていないことを自ら証明している。かすみ網を使用して捕獲を行ったのであれば、その場所と調査日と気象条件を示さねばならないし、かすみ網の設置高さ（かすみ網の天端の高さ）を必ず明記しなければならない。6m 程度の高さの低いかすみ網を使用しているなら、それでは高空を飛ぶコウモリ類が獲れるはずもなく、風力発電に対するコウモリ類への影響を検討するため準備書としてまったくの欠陥品である。</p> <p>3. コウモリ類高度別飛翔状況</p> <p>高度別の飛翔状況の把握を試みていることは一定の評価をするが、ではなぜ9月から11月までの3か月間だけの調査で予測評価に足りうと考えているのか甚だ疑問である。分散期から越冬地に移動するまでの期間の飛翔状況を把握したと言いたいのだろうが、ではなぜ春の移動時期（渡りなど）や出産・哺育時期に当該地域を利用していた場合に深刻な影響を与える可能性があるにも関わらず、その時期（4月～8月）の高度別飛翔状況を調査しないのは、最も影響の回避が難しい時期を人為的に調査時期から外しており悪質である。4月～8月の高度別飛翔状況調査を実施しなければ適切な予測評価を実施したとは言いがたい。</p> <p>同様に、9月下旬から10月にかけて、なぜ高さ50mの録音が欠測したのか理由を明記すべきである。また、欠測しているのなら、欠測している高度のコウモリ類の飛翔頻度がどの程度あるのか補完しなければ予測評価は成り立たないが、この時期のこの高度のコウモリ類の飛翔頻度のデータが欠けていても適切な予測評価が成立するという科学的根拠を示せ。</p> <p>4. 影響予測について</p> <p>影響予測について、コウモリ類の飛翔ルートに対してはう回路が確保されるので影響は小さいとしているが、高速で回転する風車ブレードに対して、コウモリ類が適切にそれを回避し、衝突する頻度は少ないとする根拠となる論文を明記しなければそれは科学的根拠のない言葉遊びの影響予測である。回転するブレードを回避するという根拠を示せ。また、どの程度の空間が空いていれば、コウモリ類のう回路になりうるのか、これも明示し予測評価を行うべきだ。</p> <p>環境保全措置を行うので、影響は軽減できると予測しているが、コウモリ類に対してはライトアップによる昆虫の誘因を起こさないとするその1文しか保全措置が書いていない。コウモリ類の生態は、すべての種によって異なっているのは当然のことにもかかわらず、コウモリ類としてほぼ同一内容の「影響予測」および「環境保全措置」で影響が小さくできるとか軽減できるとするのは暴論でしかない。各種について、その生態に即した科学的根拠に基づく、環境保全措置を行うことを求める。少なくとも本準備書の「影響予測」では、コウモリ類への影響について適切な「影響予測」が行われているとはいいがたい。</p>	<p>マイクログフォンを複数高度に設置することで、欠測期間を補うことが可能になると考えられます。</p> <p>4. それぞれの風力発電機間は数百 m の間隔があるため、コウモリ類の個体サイズや出現状況等を踏まえると、迂回する空間としては確保されているものと予測しております。また、海外での事例でもご指摘のような行動まで把握された学術論文等はないものと認識しております。それらも鑑み、事後調査を実施してコウモリ類の衝突の有無を確認し、その結果、影響の程度が著しい場合には、有識者の助言や指導を得て、状況に応じた効果的と考えられる環境保全措置を講じ、影響低減に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、ライトアップによる昆虫類の誘引低減については、いずれのコウモリ類にも有効な環境保全措置であると考えます。上記の事後調査を通じ、その結果等を踏まえ、必要に応じて順応的に対策を講じていくことで影響の低減をはかっていきたいと考えております。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

日刊新聞紙における公告

岩手日報 (平成 28 年 5 月 27 日 朝刊 2 面)

お知らせ

「環境影響評価法」に基づき、「(仮称)住田遠野風力発電事業 環境影響評価準備書」を作成し、左記により縦覧に供しますので、ご覧頂きますようお願いいたします。

一、事業者の名称 株式会社グリーンパワーインベストメント
代表者の氏名 代表取締役社長 堀俊夫
事務所の所在地 東京都港区赤坂二丁目十一番四十四号
赤坂インターシティ三階

二、対象事業の名称 (仮称)住田遠野風力発電事業

種類 風力発電所設置事業

規模 発電設備出力最大九万九千七百五十キロワット

三、対象事業実施区域 岩手県遠野市、気仙郡住田町
四、環境影響を受ける範囲であると認められる地域

岩手県遠野市、気仙郡住田町

五、縦覧の場所・時間

県南広域振興局遠野地区合同庁舎、
沿岸広域振興局大船渡地区合同庁舎、
遠野市小友地区センター、住田町役場

二階 企画財政課(いずれも、土・日・祝
日を除く開庁時)

電子縦覧 <http://greenpower.co.jp>

期間

平成二十八年五月二十七日(金)から

平成二十八年六月二十七日(月)まで

六、意見書の提出

全の見地からのご意見をお持ちの方は、書面に住所・氏名・意見(意見の理由を含む)をご記入のうえ、縦覧場所に備え付け

の意見書箱にご投函くださるか、平成二十八年七月十一日(月)までに左記の問い合わせ先へ郵送ください(当日消印有効)。

七、住民説明会の開催を予定する場所・時間

火の土自治公民館(住田町下有住字火の土一〇二二)

六月八日(水)十九時より

遠野市小友地区センター(遠野市小友町二六地割一〇五一)

六月九日(木)十九時より

八、問い合わせ先

株式会社グリーンパワーインベストメント

〒一〇七〇〇五二 東京都港区赤坂二丁目十一番四十四号

赤坂インターシティ三階 電話 〇三(四五二〇)二二〇〇

(担当)仁平、小笠原

5月25日発行 「広報すみた 5月号」

お知らせ

※行事の予定については、各世帯に配布した「健康とくらしの予定表」でご確認ください。

■ 狩猟免許試験のお知らせ

本町では、ニホンジカ・ハクビシン・カラスなどによる農林業被害が深刻な問題となっています。鳥獣による被害は、被害を及ぼす鳥獣を捕獲することが最も効果的と言われています。ただし、捕獲するためには狩猟免許の取得が必要となります。県では、下記の日程で狩猟免許試験を実施します。また、県猟友会では、試験に向けて予備講習会を開催します。



平成28年度狩猟免許予備講習会の日程

	月日	場所
第1回	6月26日(日) 9:00~17:00	岩手県消防学校
第2回	8月21日(日) 9:00~17:00	山田町中央 コミュニティセンター
第3回	11月27日(日) 9:00~17:00	岩手大学学生センターA

平成28年度狩猟免許試験の日程

	月日	場所
第1回	7月10日(日) 9:00~17:00	岩手県消防学校
第2回	8月28日(日) 9:00~17:00	山田町中央 コミュニティセンター
第3回	12月11日(日) 9:00~17:00	岩手大学学生センターA

※受講を希望される方は、開催日の16日前までに問い合わせの上、お申し込みください。

なお、山田町の会場では、わな猟と第一種銃猟のみの講習および試験となります。

○ 狩猟免許取得補助金について

町では、新規の狩猟免許取得に要した《補助対象者》(全てに該当する方が対象)経費に対して、補助を行っています。

- 詳しくは、下記までお問い合わせください。
- ①町内に住所を有する方
 - ②猟友会に入会し、有害鳥獣捕獲に従事することができる方
 - ③町税および使用料等に未納がない方

- ★問い合わせ 狩猟免許予備講習会について：県猟友会 019-622-2358
 狩猟免許試験について：大船渡保健福祉環境センター 27-9913
 狩猟免許取得補助金について：林政課 林業振興係 46-3868 (内線244)

この機会にぜひ狩猟免許の取得をお願いします

「(仮称)住田遠野風力発電事業」の説明会と
「環境影響評価準備書」の縦覧について

(株)グリーンパワーインベストメント(東京都)が「(仮称)住田遠野風力発電事業」について、環境影響に関する調査や予測・評価をまとめた「環境影響評価準備書」の縦覧と事業説明会を次のとおり開催します。

★縦覧期間

5月27日(金)~6月27日(月) 9:00~16:00 (土日祝を除く)

★縦覧場所

役場企画財政課窓口 ※意見書の受付は7月11日(月)まで

★事業者説明会

火の土自治公民館 6月8日(水) 19:00~

★問い合わせ

企画財政課 企画係 ☎46-2114(内線226)

岩手駐屯地創立59周年
記念行事の開催

岩手駐屯地を一般公開します。

★日時

6月5日(日) 8:30~15:00

★会場

陸上自衛隊岩手駐屯地
(滝沢市後268-433)

★問い合わせ

陸上自衛隊岩手駐屯地 司令業務室
☎019-688-4311

住田の
すまい

住田住宅産業(株) ☎46-2465

岩手県住田町産
ありすぽーく

地産地消
生産農場

有ありす畜産
TEL0192(48)2019

R107 ありす畜産直売所 TEL0192(46)2286

(15) 平成28年5月25日 広報すみた

6月2日発行 「広報すみた 7月号」

Information

お知らせ

万が一の事故に備えて 交通災害共済へ加入を

市は、一人400円の掛金で、交通事故による死亡・負傷などの際に見舞金が支払われる「市町村交通災害共済」への加入を勧めています。詳細は、6月上旬に各世帯に配布する申込書をご覧ください。

■問い合わせ 市市民課(☎62-2111内線262)

6月期の児童手当支給 現況届提出も忘れずに

2～5月分の児童手当を6月10日までに指定の金融機関口座に振り込みます。支給額は、すでに送付している年間支払通知書をご覧ください。

また、6月は現況届の月です。受付日程や必要書類などは、6月上旬に受給者宛てに通知しますので、期限までに提出してください。

■問い合わせ 市市民課(☎62-2111内線262)

平成27年度の文書開示 の実施状況をお知らせ

市は市の活動などについて市民に理解してもらうため、行政文書を開示しています。平成27年度の開示請求は30件(全部開示20件、部分開示7件、個人情報開示0件、請求取り下げ3件)でした。詳細は、市ホームページへ。

■問い合わせ 市総務課(☎62-2111内線212)

遠野市 情報公開 

不法に滞在・就労する 外国人の情報提供を!

外国人が、偽造した在留カードを使い、不法に滞在・就労しているケースが増加しています。不法滞在・就労に関する情報をお持ちの方は、警察署まで連絡ください。

■問い合わせ 遠野警察署(☎62-0110)

DVなどに悩む女性の 相談に無料電話で対応

岩手弁護士会は、女性に対する暴力や差別、離婚などの諸問題に関する相談に弁護士が応じる臨時無料電話を開設します。気軽にお電話ください。

■相談ダイヤル 019-625-1171

■開設日時 6月24日(金)、10時～16時

■問い合わせ 岩手弁護士会(☎019-651-5095)

HIVや肝炎ウイルス などの無料検査を実施

県中部保健所では、▷HIV▷クラミジア▷B型・C型肝炎ウイルスの定期検査を、無料で実施しています。検査は匿名でも構いません。※要事前予約

■検査実施日時 毎月第1火曜日、9時半～10時半、13時～14時40分 ※来年1月は第2火曜日

■場所 県中部保健所(花巻市花巻町1-41)

■予約・問い合わせ 県中部保健所保健課(☎0198-22-2331内線232)

ひきこもりに悩む人は 医師による専門相談を

ひきこもりは、あなただけに起きている問題ではありません。まずは、医師による専門相談で悩みを打ち明けてみませんか? 家族相談会も開催しています。

■専門相談(要予約) 内容/専門医師が、本人・家族の相談に無料で応じます 日時/7月13日・9月28日・12月14日、いずれも水曜日、13時半～16時 場所/花巻地区合同庁舎(花巻市花巻町1-41)

■問い合わせ 県中部保健所保健課(☎0198-22-4921内線228)

小友地区の風力発電事業 の説明会などを開催

國グリーンパワーインベストメントが本市の小友地区と住田町にまたがる山間部で計画している「(仮称)住田遠野風力発電事業」について、説明会と環境影響に関する調査や予測・評価をまとめた「環境影響評価準備書」の縦覧を行います。また、同事業に関する意見書も受け付けます。

■説明会 日時/6月9日(木)、19時～21時 場所/小友地区センター

■縦覧 期間/6月27日(月)まで 場所/同センター

■意見書 期限/7月11日(月)まで 用紙・投函箱設置場所/同センター

 YDKを応援する
明光のLINE
公式アカウント登場。
楽しいコンテンツと
お得な情報を、今も
どんどん配信しています。
まずは、友だちに追加を。




LINEアプリを起動し、「その他」→「QRコード」の順に進み、QRコードリーダーでQRコードを読み取る。

類別 講座 遠野教室
明光 異 聖 松崎町白岩10-15-21 ☎0198-60-1661

有料広告

一緒に山に登りませんか?

2016「山の日」制定記念
「市民登山」参加者募集!

★期 日 7月3日(日)、集合6時

★参加費 4,500円(バス代、保険料含む)

★定 員 35人(定員になり次第締切)

★申込先 喫茶「詩季」(遠野駅前、メガネスーパー隣)

新・百名山
「七時雨山」
(八幡平市1,099m)

問い合わせ 早池峰山总会 佐藤(☎65-3526)

有料広告

株式会社グリーンパワーインベストメント ウェブサイト

(仮称)住田遠野風力発電事業環境影響評価準備書の電子縦覧について

2016.5.27

事業者名	株式会社グリーンパワーインベストメント
事業所名	(仮称)住田遠野風力発電事業
実施区域	岩手県遠野市、気仙郡住田町
縦覧場所	遠野市小友地区センター 住田町役場 二階 企画財政課 沿岸広域振興局大船渡地区合同庁舎 県南広域振興局遠野地区合同庁舎
縦覧期間	平成28年5月27日(金)～6月27日(月) (いずれも、土・日・祝日を除く開庁時)
電子縦覧	電子縦覧はこちら
意見書提出方法	準備書の内容について、環境保全の見地からご意見をお持ちの方は、縦覧場所に設置されている意見書様式の項目を全て記載の上、意見箱へ投函いただくか、下記問合せ先に、住所、氏名、内容を記載の上、Eメールまたは郵送でご提出下さい。 (電話によるご意見、ご質問はお受けできません。ご了承下さい。)
意見書提出期限	平成28年7月11日(月) ※当日消印有効
住民説明会	<住田町説明会> 日時:平成28年6月8日(水)午後7時より 開場:火の土自治公民館 (住田町下有住字火の土102-10) <遠野市説明会> 日時:平成28年6月9日(木)午後7時より 開場:遠野市小友地区センター (遠野市小友町16地割105-1)
お問い合わせ先	株式会社グリーンパワーインベストメント 〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ3階 TEL : 03-4510-2100 Eメール: sumita-ono@greenpower.co.jp 担当:仁平・小笠原



黄金の國、
いわて。

文字サイズの変更 [縮小](#) [標準](#) [拡大](#) サイト内検索

[配色の変更](#) [音声読み上げ](#) [サイトマップ](#) [Foreign Language](#)

[トップページ](#) [震災復興](#) [くらし・環境](#) [産業・雇用](#) [県土づくり](#) [教育・文化](#) [県政情報](#)

現在の位置 : [トップページ](#) > [くらし・環境](#) > [環境](#) > [環境保全](#) > [環境影響評価手続状況](#) > (仮称)住田遠野風力発電事業環境影響評価準備書の縦覧等について

くらし・環境

環境

- ▶ [環境保全](#)
- ▶ [鉱業・水資源](#)
- ▶ [大気\(測定結果、アスベスト対策など\)](#)
- ▶ [水質\(公共用水域、地下水、土壌、水生生物調査\)](#)
- ▶ [騒音・振動・悪臭](#)
- ▶ [化学物質\(PRTR、ダイオキシン、フロン\)](#)
- ▶ [公害苦情](#)
- ▶ [環境コミュニケーション](#)
- ▶ [放射能・放射線](#)
- ▶ [環境影響評価](#)
- ▶ [環境影響評価手続状況](#)
- ▶ [その他\(権限移譲、条例、マニュアル、環境関連法整備\)](#)

[読み上げる](#)

(仮称)住田遠野風力発電事業環境影響評価準備書の縦覧等について

[Twitter](#) [シェア](#)

ID番号 N45820 更新日 平成28年5月31日

(仮称)住田遠野風力発電事業環境影響評価準備書の縦覧等について

標記事業について、下記のとおり図書の縦覧を行っています。

実施事業者

株式会社グリーンパワーインベストメント

縦覧場所

- (1) 遠野市小友地区センター
- (2) 住田町役場 二階 企画財政課
- (3) 岩手県沿岸広域振興局大船渡地区合同庁舎
- (4) 岩手県県南広域振興局遠野地区合同庁舎

縦覧期間

平成28年5月27日(金)～平成28年6月27日(月)

縦覧時間

いずれも、土・日・祝日を除く開庁時

その他

下記のリンクからも、図書をご覧いただけます。

<http://www.greenpower.co.jp/topics/index.html?pSc20150901>



このページに関するお問い合わせ

環境生活部 環境保全課 環境影響評価・土地利用担当

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

電話番号:019-629-5269 ファクス番号:019-629-5364

お問い合わせは専用フォームをご利用ください。

[このページのトップへ戻る](#)

[前のページへ戻る](#)

[トップページへ戻る](#)

表示

PC

[スマートフォン](#)

[個人情報の取り扱い](#) [ウェブアクセシビリティ](#) [サイトの利用ガイド](#) [リンクについて](#)

岩手県庁 〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号 電話番号:019-651-3111(総合案内)

©わんこきょうだい



Copyright (C) Iwate Prefecture Government All Rights Reserved.